



気仙沼市 社協だより

編集
発行

社会福祉法人 気仙沼市社会福祉協議会

《公式ホームページ》 <http://kesennuma-shakyo.jp/>



公式LINE
友だち募集中!

スマートフォンの
LINEアプリから
「友だち追加」できます。



本 所 ◆ 気仙沼市東新城二丁目1番地2

TEL 0226-22-0709/FAX 0226-22-4467
E-mail : keshakyo@watch.ocn.ne.jp

唐桑支所 ◆ 気仙沼市唐桑町石浜282番地3(唐桑保健福祉センター「燐さん館」内)

TEL 0226-31-2051/FAX 0226-31-2052

E-mail : karakuwa-shakyo@ceres.ocn.ne.jp

本吉支所 ◆ 气仙沼市本吉町津谷館岡51番地6

TEL 0226-42-2231/FAX 0226-42-1241

E-mail : moto-sha@kind.ocn.ne.jp

ほんの小さなやさしさで 広がる大きな支援の輪



10月1日から「赤い羽根共同募金運動」が全国一斉に始まります。
今年も皆様のあたたかいご支援とご協力をお願いいたします。

(写真は令和5年度実施分より一部掲載)



氣仙沼市社協

敬老作文 最優秀賞

さかなやのおばあちゃん

鹿折小学校一年 芳賀葵志

ぼくのおばあちゃんは、さのつて、ふんであげます。

かなやさんはたらいでいま
す。さかなをさばいたり、りよ
うりをしたりしています。

おばあちゃんは、いえでぼ

ちようどいいね。」

といっています。

いつもわらつているやさし
くにさかなのさばきかたをお

しえてくれます。ほうちよう

をうまくつかないぼくは、

おばあちゃんがさかなをさば

うをつかってじょうずにさか

ながさばけるようになるまで、

あしもこしもだいじにして、

げんきでいてほしいです。お

ばあちゃんみたいにさかなを

かつこよくさばいて、おばあ

ちゃんにたべてもらいたいで

す。

「あしがいたいなあ、こしが

いたいよう。」「といいます。そんなとき、ぼくは、おばあちゃんのこしに

おばあちゃん、もうすこし
まつていてね。

早くからはたらきものですが
いなあと思いました。

氣仙沼市社協では、九月九日に敬老作文コンクール審査会を開催しました。

市内の小学校一年生から六年生を対象に作品を募集。今年は四十二作品の応募がありました。審査の結果、最優秀賞に六編、優秀賞に十八編の作品が選ばれました。今号では、最優秀賞作品をご紹介します。

ぼくのいとおばあちゃん

唐桑小学校一年 佐々木陽斗

ぼくのおばあちゃんは、ま

そななおばあちゃんは、ほ

い日おじごとに行っています。

くにおべんきょうもおしえて

おしごとからかえつてきても、

くれます。いつもやさしくお

つかれているのに、いつもや

しゃてくれるので、ぼくはお

さしくえがおでいてくれます。

ばあちゃんと一しょにおべん

が大きです。

おしごとが休みの日は、あ

そんでくれる時は、トランプ

をしたりおいかけっこをしま

す。おばあちゃんとあそぶの

がたのしくて、りょうりもす

ます。

ぼくがあさ目ざめると、草

ごく上手です。とくに、さか

かりきかいの音がして、あさ

なをさばくのがうまいです。

早くからはたらきものですが

て、つづてきたさかなをきれ
いなあと思いました。

いにさばいて、しおやきにし
たり、につけしてくれまし
た。おいしくて、たくさんた
べました。ぼくもおばあちゃ
んみたいに、すばやくさかな
をさばけるような人になりた
いと思いました。

いつもニコニコえがおのお
ばあちゃん。ぼくにはもちろ
んのこと、家ぞくの人にもき
んじょの人にもいろいろな人
にいつもニコニコしているお
ばあちゃん。えがおでいるこ
とは、自分もまわりの人もし
あわせになれるまほうだと思
います。

ぼくもおばあちゃんのよう
に、はたらきものでえがおを
たやさない人になりたいです。





わたしの友だち

鹿折小学校三年 芳賀結乃

私の住んでいる近くには、一緒にごはんを食べました。おじいさんとおばあさんがたくさんいて、朝からさん歩をしたり、運動をしたりといつも元気です。私はいつもだれかに会うと、すすんであいさつをしているので、だいたいの人はみんな友達だと思つてあります。

八月のはじめに、近所で夏まつりがありました。私は、お母さんと弟と一緒におまつりのじゅんびをしました。おばあちゃんとおじいちゃんの力になりたかったので、يسやテーブルなどの重いものを、みんなより多くはこびました。体を動かすのが大へんそうなおばあちゃんと声をかけながら楽しくじゅんびをしました。お昼になると、みんなで一

あつたんだよなと思うと、ほほえましくもありました。
しばらくすると、カラオケ大会が始まりました。私は、今はやりの歌を歌いました。

おじいちゃんとおばあちゃんは、私の知らない歌を歌つていたので、お母さんに聞くと、えん歌だと教えてくれました。

私は初めて、えん歌を聞きました。おなかいっぱいになつて、し

あわせな気もちになりました。私は小学三年生なので、

お昼を食べたら、いよいよきつと、このほかにも、私の

おまつり本番です。おじいちゃんは、ポップコーンやわ

たあめを作つて売つていまし

た。おばあちゃんは、かき氷

を売つたり、わなげをじゅん

びしたりしていました。お客様

ばあちゃんとおじいちゃんの

お母さんと弟と一緒におまつ

優秀賞

◎わたしのおばあさん

松岩小一年 三浦み浦
乙華おとは

◎じいちゃん、きいててね

階上小一年 菅原すがわら

◎げんきなおばちゃん

大島小一年 村上茉菜和ちらかみまなか

◎大きなじいじとばあばの家

氣仙沼小二年 藤田かいた

◎ほくのじいちゃんとばあちゃん

九条小二年 菅原すがわら

◎じいじはほくの心の太陽

松岩小二年 畠山はたけやま

◎ぼくのじいちゃんとばあちゃん

九条小三年 菅原すがわら

◎二人がいなかつた日

津谷小三年 加藤かとう

◎となりの家の小野寺さん

新城小四年 菅野かんの

◎ぼくとおばあちゃんの時間

面瀬小四年 渡邊わたゑ

◎わたしのおばあちゃん

鹿折小四年 加賀かが

◎よつちの右うで

九条小四年 加賀かが



みつちゃんは私のじまん

階上小学校四年 菅原心春

私は、近くに一人で暮らしているおばあちゃんの「みつちゃん」がいます。一年半ほど前に、じいちゃんが病気で亡くなってしましました。それから、さびしい思いをさせないように、よくみつちゃんの家に泊まりに行つて

います。

「昔にあつた歌だよ。」と教えてくれました。みつちゃんは、とても明るくておもしろいおばあちゃんです。二人で話をしていたり、弟たちとけんかをしていると、会話を歌にかえてしまふ名人です。

みつちゃんは、いつもおもしろいおばあちゃんです。二人で話をしていたり、弟たちとけんかをしていると、会話を歌にかえてしまふ名人です。

「昔にあつた歌だよ。」と教えてくれました。みつちゃんと一緒にいると、いつもおもしろいおばあちゃんです。二人で話をしていたり、弟たちとけんかをしていると、会話を歌にかえてしまふ名人です。

みつちゃんは、おもかをしていて、私が「やめてよ！」と言うと、それを聞いたみつちゃんが、「やめてケレ、やめてケレ、」と、何度も自分で作っているそ

しているおばあちゃんの「みつちゃん」がいます。一思わず笑つてしまつて、みつちゃんのおかげでけんかも終わってしまいます。

「何、その歌。」と聞くと、

「昔にあつた歌だよ。」と教えてくれました。みつちゃんと一緒にいると、いつもおもしろいおばあちゃんです。二人で話をしていたり、弟たちとけんかをしていると、会話を歌にかえてしまふ名人です。

みつちゃんは、おもかをしていて、私が「やめてよ！」と言うと、それを聞いたみつちゃんが、「やめてケレ、やめてケレ、」と、何度も自分で作っているそ

のぼうしを作つてあげたことあるそうです。とてもほこらしい、私のじまんのおばあちゃんです。

❖❖令和6年度敬老作文講評❖❖

本会では、敬老の日を迎えるに当たつて、児童が高齢者に対する理解を深めながら敬老の心を培つことを目的とした敬老作文コンクールを行いました。

市内11の小学校より42点のご応募をいただき、元教員、福祉関係者などの審査員9名により厳正なる審査を行い、最優秀賞6点、優秀賞18点が選ばれました。

【講評】

いづれの作品も小学生らしい素直な気持ちやそれの置かれている環境が適切に表現されていた。また、書き出しに工夫を感じられる作品も多くありました。四年生になって、クラブ活動が始まりました。私は「調理手芸クラブ」に入りました。九月からは手芸をするようになりました。九月からは手芸をする色んな物を作る名人でもあります。ポーチやカバン、みつちゃんの着ている洋服のほとんどの自分で作っているそ

みつちゃんには、叶えられ

来る年もまた、心温まる多くの作品と出会えること



「それは、亡くなつたじいちゃん」と愛ひめ県のとべ動物園の「しろくまのピース」に会いに行くことでした。国内初の人工哺育で育てられたしろくまをテレビで知つてから、二人で行こうねと約束していたそうです。それでも叶わず、じいちゃんは亡くなつてしましました。そこで私は思いました。

「よし、私がみつちゃんと一緒に行こう！」

＊＊＊＊＊

がんばれびい

おこづかいを貯めて、いつか
みつちゃんと一緒に行こうと
心に強く思いました。

みつちゃんへ

いつもありがとうございます。いつか
一緒にとべ動物園のピースに
会いに行こうね。じいちゃん
も一緒にさ。みつちゃんの吐
えられなかつた夢、私と一緒に
叶えようね。楽しみに待つ
てね。これからも体を大切
に、じいちゃんの分まで長生
きしてね。

「どうしよう…」
と言つていた。私も動ようとした。

次の日、母は病院へかけられた。あんなに元気だったのに、いちやんが、目も開けず、たゞつとねむつていると母は言つていた。それから毎週のように母は秋田へ通い、ぴいちゃんの顔を見に行つた。

一ヶ月が経つころ、ぴいちゃんは目を開けて、少しづつ何かを話すようになつた。まひもあるため、聞き取れましいことの方が多いが、笑つたり、声を出すようになつた。この間は、ゼリーと水を口に入れて飲みこむ練習もして、いた。

人間の「生きようとする力」は本当にすごいと思う。母も「もう声を聞けないんじやないかと思つていた」

「それから母は、昔のアルバムを探し、病室に持つて行つた。

「この人覚えてる?」

「この時は○○に行つたんだよ」

と話す。するとびいちやんは一緒に写っている人の名前を言う。

「すごいね!よく覚えてたね!!」

とほめると、びいちやんはにつこりと笑う。本当にすごい回復力だ。さすがびいちやんだ。

人はだんだん赤ちゃんにもどつていくと聞いたことがあらが、本当にその通りだと思う。一言一言話せるようになると周りは感動し、口から何か食べたり飲んだりできるようになると、

「すごいね!!」

とみんな笑顔になる。

びいちやんは私が赤ちゃん

がんばれぴいちゃん

九条小学校五年
武田美也

An illustration showing four characters from left to right: a young man with dark hair, an elderly man with grey hair, an elderly woman with grey hair wearing a headband, and a young girl with dark hair. All four characters are smiling and have their right arms raised in a waving gesture.

全国の障害福祉サービス事業所の情報を見ることができます。
障害福祉サービス等情報公表システム <https://www.wam.go.jp/sfkohyoout/COP000100E0000.d0>



鬼面のじじ神様

大島小学校六年
菊きく
田た
遙はる
孔く

ぼくの祖父は、お店の社長をしていました。七十才になつても、朝早くから市場へ行って、店番もして、年中無休で働くすごい人です。

目力もあつて鬼のような顔をしていて、あまり接客には向いていませんが、毎日一生けん命動いでいるので、

学校が終わると、祖父のお店に帰るのがぼくの日課なので、毎日大好きな祖父に会えます。

ぼくにはとてもやさしいですが、母の小さかつたころはとても厳しく、毎日怒鳴られていたそうです。そんな姿は想像もできません。

何か欲しいものができるた時

モードにしたのに、音が鳴らないといつも騒いでいます。誤つて電源を切つてしまつた時は、故障したとかん違いをして、ショップまで行つた事もありました。一人で大笑い

今年に入り、もつと心配なことが増えました。いつも元気だった祖父に病気が見つかり、入院したのです。検査の度に傷が増え、痛そうにしています。それで

すぐに手に入ります。母に見つからないように、二人でこつそり買い物に行くのが一番の楽しみです。すぐに見つかって怒られても、じじ神様と一緒になら全然怖くありません。祖父の背中は、日本一安心な場所です。

二回以上行くこともあるのですが、髪もないのにどこを切るのか、小さいころは不思議でした。床屋から帰つてくると、よく聞かれるのですが、「どうだ。」

障がいへの理解を深める機会として
キャップハンディ体験を実施しました

気仙沼市人権擁護委員協議会の方々からの依頼を受け、車いすの走行、介助方法や障がいについて理解を深めていただくことを目的



に、キヤップハンディ
体験を実施しました。

本会では、学校や地域のほか、各種団体からの福祉体験に関する相談を受け付けていますので、お気軽にお問い合わせください。



氣仙沼市社会福祉協議会 電話 22-0709

しながら帰ってきた事は今まで
もいい思い出です。

も退院すると、すぐにお店
出て仕事をする祖父は、世
一そん敬できる人です。

も退院すると、すぐにお店に
出て仕事をする祖父は、世界
一そん敬できる人です。

ぼくは、何事も後回しにし
がちで、そのまま忘れてしま
役に立つ番です。

う事も多いですが、祖父の姿
を見て、自分の行動を改めな
ければと強く思いました。



地域で グループで

地域での孤立に気づき、つながり、見守る人材

「つながりワーカー養成講座」開催しませんか？

今年度、宮城県共同募金会からの事業助成を受けて、日常生活を支える仕組みづくりを進めるための1つとして、つながりワーカー養成講座を実施しています。

地域の人たちとつながり、支え合うために必要な「気づく」「つながる」「つなげる」「見守る」ポイントなどについて考え合う講座内容となっています。

地域で、自治会やグループ単位でも開催可能ですので、ぜひお気軽にお問い合わせください。

※インターネット通信環境がある会場での開催となります。



視覚に障がいがある方へのボランティア養成講座を開催しました



視覚に障がいがある方をサポートする人材の養成を目的に、このほど3回コースによる講座を開催しました。

宮城県立視覚支援学校及び同行援護事業所エンジョイ・ウォークよりご協力をいただき、基本の姿勢や動作から、階段昇降や車の乗降といった応用的な内容を学んでいただき、全3回受講された方に対し修了証を交付しました。

今後、様々な機会で活躍していただく予定です。

災害ボランティアセンター運営支援報告

令和6年7月25日の大雨災害により被災した山形県戸沢村災害ボランティアセンター（以下、災害VC）運営支援のため、宮城県社協の調整を経て、9月6日から10日まで職員を派遣しました。災害VCでは、現地調査班として被災者の生活課題に重点をおいた聞き取りやボランティア活動依頼の確認などの業務を行いました。



唐桑支所
小野寺一樹

主に、住民の困りごとなどの確認と支援物資やチラシの配布等を行いましたが、一度ボランティアが入った世帯でも、再度、ボランティア調整の依頼をするケースも多く、時間の経過によって新たな困りごとや要望も出てくる時期もありました。また、住宅や生活再建に関するなど災害VC以外での心配ごとや相談もあり、関係機関との連携の重要性とともに定期的な訪問調査など住民に寄り添った活動の必要性を実感しました。

この経験を忘れず、今後に活かしていかなければと思います。



10月1日より全国一斉にスタート！

赤い羽根共同募金運動にご協力を お願いします

今年の赤い羽根募金目標額は
7,910,000円 です



じぶんの町を 良くするしくみ

共同募金は、だれもが安心して暮らせる「まちづくり」を進めるために必要な、住民団体やボランティア等による地域福祉活動を支援します。

また、災害時には「災害ボランティアセンター」設置や運営などにも使われます。



令和5年度「赤い羽根募金」運動の実績報告

赤い羽根 募金総額

7,911,486円

内訳

毎戸募金	7,022,600円	学校募金	70,052円
個人募金	98,985円	法人募金	39,478円
職域募金	10,301円	その他	670,070円

令和5年度に市民の皆さんからお寄せいただいた赤い羽根募金のうち、令和6年度は気仙沼市社会福祉協議会が行う下記の地域福祉活動に活用されます。

配分額 3,124,923円

配分内容

市社協だより、ホームページ運営、敬老作文コンクール、高齢者交流事業、児童福祉施設等への歯ブラシ贈呈事業、災害ボランティア講座、ガイドヘルパー(ボランティア)派遣事業等に配分



【高齢者交流事業 e スポーツ体験教室】



【災害ボランティアセンター設置運営訓練】

宮城県共同募金会からお知らせ 「むすび丸ピンバッジ募金」

今年も仙台・宮城観光キャラクター「むすび丸」とコラボした「むすび丸ピンバッジ募金」を行います。

近年、自然災害が多発していることから、第12弾となる今回も、宮城県内の市町村社会福祉協議会が行う防災資機材整備の助成に活用します。

数量限定で頒布しますので、皆さまからのご協力をよろしくお願いいたします。



今年も温かいご支援とご協力をお願いいたします



赤い羽根共同募金

気仙沼市共同募金委員会
(☎ 022-0709 気仙沼市社会福祉協議会内)



ご意見・ご感想など、お待ちしています。

TEL 0226-22-0709/FAX 0226-22-4467 E-mail : keshakyo@watch.ocn.ne.jp



この広報紙は「赤い羽根」
共同募金の配分等によって
作成しました。